

京都芸術大学附属高等学校

教育目的（学則）	
「想像力」と「創造力」を理念とした教育活動を通じて自己効力感を育み、 自己の未来に対して自信をもってチャレンジできる生徒の育成を目的とする	
スクールミッション	
10年後、いきいきと社会に参画できる人材の育成	
普通科	じぶんみらい科
教育目的	
自ら考え、決定して行動する力を身につける（自己進路決定力の育成）	身近な社会課題を発見し、他者と共にその解決方法考える事のできる創造力を身につける
1.育成を目指す資質・能力に関する方針「グラデュエーション・ポリシー」	
社会生活に必要な「基礎学力」と「人間力」を育成する。	じぶんみらい科では、「ふたつの力と7つの能力」を育成することで、教育目的の達成を目指します。
◆基礎学力 中等教育として求められる知識・技能を身につける ◆人間力 ◇コミュニケーション力 ・傾聴力：他者の考えを正しく聴き取る ・口頭表現力：自分の考えを高等で正しく伝える ・読解力：書き手の考えを正しく読み取る ・文章力：自分の考えを文章で正しく伝える ◇協働力 ・多角的視点と柔軟な思考力：他者と協働して複数の視点で複数の選択肢を提示できる ・合意形成力：自分の考えと他者の考えを活かしながら意見の一致を図る ◇発想力 ・発想力：自分と他者の考えを活かして新しい考えを生み出す ・全員参加の重要性理解：新しい考えは参加者全員の意見が反映された結果であることを理解する	未来をつくる・自分をつくる「創造力」 創造力 課題を解決し、新しい価値を創出する力 デザイン思考 課題の解決方法を考える上で必要となる自分らしい思考方法 協働力 他者と共に考えることを通じて、新しいアイデアを獲得する 自己理解・他者理解 課題を発見する上で必要となる様々な視点を獲得する 協働に必要な「共通言語・能力」 主体的に学習に取り組む態度 自らの意思で学習を継続し、新たな課題に取り組む姿勢を身につける 思考力・判断力・表現力 身につけた知識・技能や経験を活用して課題に取り組む力を身につける 知識・技能 社会で生きていく上で必要となる、他者と協働するための共通言語としての知識・技能を身につける
2.教育課程の編成及び実施に関する方針「カリキュラム・ポリシー」	
グラデュエーションポリシーを達成する為に、教育課程の編成、教育内容・方法及び学習評価に関する方針を以下の通りとする	グラデュエーションポリシーを達成する為に、教育課程の編成、教育内容・方法及び学習評価に関する方針を以下の通りとする
◆教育課程編成 教育課程は、「普通科目」「基礎科目・プロフェッショナル科目」（学校設定科目）、「総合」（総合的な探究の時間）によって構成される。主に「普通科目」と「基礎科目」において中等教育における基礎学力を習得させ、「プロフェッショナル科目」と「総合」において、キャリア意識の醸成と社会人基礎力としての「人間力（コミュニケーション力、協働力、発想力）」の育成を目指す。 〔普通科目〕 全ての科目において対話型学習を取り入れ、知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力の向上を目指す。 〔基礎科目〕（学校設定科目） 国語基礎、数学基礎、英語基礎を1年次に配置し、中学校段階の学習内容を復習することで、基礎学力の確実な定着を図る。 「プロフェッショナル科目」（学校設定科目） 1年次のキャリアデザインⅠにおいて早期から生徒の進路意識を喚起し、2、3年次のプロフェッショナル科目において体験的な学習を通して、生徒の進路選択の幅を広げる。 〔総合〕（総合的な探究の時間） 全学年に配置し、対話的な学習を通して、3年間を見据えた「人間力（コミュニケーション力、協働力、発想力）」の育成を目指す。	◆教育課程編成 教育課程は、「普通科目」「創造科目」（学校設定科目）「探究科目」（総合的な探究の時間）により構成され、主に「普通科目」において、協働に必要な「共通言語・能力」を身につけ、「創造科目」と「探究科目」において、両科目が有機的に連動することで、未来をつくる・自分をつくる「創造力」が身につく構成とする。 それぞれの科目編成にあたっての基本方針を以下の通りとする。 〔普通科目〕 ・他者と協働する上で必要となる共通する知識・技能を習得する ・社会人として必要となる基礎的な能力の修得に必要な科目構成とする 〔創造科目〕（学校設定科目） ・課題解決の方法を考える上で必要となるデザイン思考を修得する ・個人活動による課題解決方法の創造にチャレンジする 〔探究科目〕（総合的な探究の時間） ・身近な社会課題を発見する為に自己理解・他者理解を深める ・他者とともに考える協働学習を行う ・集団活動による課題解決方法の創造にチャレンジする
◆教育内容・方法 教育内容・方法については、スクーリング、レポート、テストを有機的に連携させることで、生徒の学習意欲を高め、自律的な学習習慣の確立を促す。また、課外講座や活動を通して、生徒が主体的・能動的に学び、活動できる機会を提供する。 1．3年間での卒業を目標とし、第1学年から第3学年までの学年制と学級担任制を採用する。 2．スクーリングを月曜日、水曜日、金曜日に、自主学習支援講座等を火曜日、木曜日に行い、生徒一人ひとりの状況に応じた登校習慣の確立を支援する。 3．LHR（ロングホームルーム）に加え、遠足、体育祭、文化祭、研修旅行などの特別活動を実施し、集団活動に必要な態度や行動を育成する。 4．スクーリングを通して学習への興味・関心を高め、生徒が主体的かつ協働的に学習に取り組む姿勢を育成する。 5．生徒の学習目的や進度に応じた自主学習支援講座を開講し、個々の学力向上を支援する。 レポート・テスト対策講座：スクーリングとの連携により、レポートやテスト範囲の理解を深める。 進路対策講座：進学希望者を対象に英語、国語、美術のレベル別講座を開講し、進路支援する。 6．生徒が企画から実施まで主体的に関わる活動を通して、生徒の主体性と協働力を育成する。 活動例：体育祭、文化祭、ねぶたプロジェクト、同好会発表会など 7．1年次からプロフェッショナル科目を軸としてキャリア教育に取り組み、進路HRや進路イベントを通して生徒の進路意識をより一層高める。	◆教育内容・方法 教育内容・方法については、学習者のモチベーションの維持、自己決定権の尊重、多様な機会の創出を実現できるように以下のように方針を定める ・学習期間 一定のペースで学習が進められるように2学期6クール制とし、各クール（5週間）での標準的な学習内容を示し、学習習慣を身につける ・学習教材 楽しく学習が継続できるような常に改善を行い、また学習者が自分に合った教材を選択できるように、多様な学習教材を選べるようにする。 ・ICTツール 自宅学習を効果的に行い、また教員と学習者・学習者間の交流が図れるよう、適切なICTツールを選定・構築する ・連携 高校教育に学園のもつ様々な資産を反映するとともに、多様な教育コンテンツに触れる機会を提供することを目的に学外連携を行う ・学習支援 学習者の孤立を防止し、自学自習の継続に意欲をもって取り組めるようにサポート体制を整える ・キャリア支援 自己の未来に対して、自ら機会を創出することができるように、様々なキャリアを想定し、そのサポートを行う。
◆学習評価 学習評価は、各生徒の学習過程と成果に基づき、5段階の評定評価と、3つの観点別評価（A、B、Cの3段階評価）によって行う。	◆学習評価 学習評価は、各生徒の学習の過程と成果を根拠に、5段階の「評定評価」と、三つの観点を三段階ABCで評価する「観点別評価」で実施する。 三つの観点(①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度)は、ディプロマポリシーで示した「ふたつの力と7つの能力」の7つの能力のうちの3つと対応している。ディプロマポリシー達成のため、三つの観点からバランス良く評価できる仕組みを構築する。
3.入学者の受け入れに関する方針「アドミッション・ポリシー」	
本科の教育目的に共感し、対話型教育において仲間と協働しながら、自らの研鑽に励む意欲を持つ生徒を求める。	入学者においては、本学科の教育目的に共感し、自己の未来に対してチャレンジする意欲を持つ生徒であることを求めます。
◆入学者選抜方法 本科が主催する「学校説明会&体験授業」への参加を必須とし、文章表現による選考を行う。選考では出題内容に対する解答の適切性を評価する。	◆入学者選抜方法 ・文章表現による選考とし、本学科に対する理解と、入学にあたっての自身の未来に対しての意欲を問うものとする。